PRESS RELEASE

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

平成２９年３月１７日

国吉康雄作品を基にしたオリジナル演劇作品を 4 月から製作
地域・教育連携プログラムの一環で 11 月に岡山公演

岡山大学大学院教育学研究科「国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座」は平成 29 年度、国吉康雄作品を使用したオリジナル演劇作品を製作するとともに、官学・市民協働事業として、地域の芸術文化資源を生かした地域課題を考察するための事業を企画します。

本講座は本年度、国吉康雄の作品と研究資料をコンテンツとした体感型イベント「国吉祭」を企画・実施しました。国吉祭は各メディアで紹介され、学生と市民、地域企業、岡山市、岡山県などの産官学の協働事業として反響を呼び高い評価を得ました。

来年度は、本活動を発展させる形で、岡山の既存の芸術文化資源を活用した地域コンテンツの開発と運用により、芸術文化都市として岡山が有する本来のポテンシャルを、学生や住民、地域経済、コミュニティーに正しく認知してもらうことを目指します。

＜背景＞

本学大学院教育学研究科は 2015 年 10 月、公益財団法人福武教育文化振興財団と公益財団法人福武財団の寄付により、「国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座」を本研究科に設置しました。国吉康雄（1889～1953 年）は、岡山市北区出石町出身でアメリカを代表する洋画家であり人権・社会活動家、教育者です。本講座は、国吉作品を日米最大規模で有する岡山で、教育活動を通して国吉康雄の研究と顕彰活動を推進することを目的としています。

＜今年度の活動＞

今年度は、本講座が主催する一般教養科目「クリエイティブ・ディレクター養成（通称：CD 講座）」の受講生を中心とした学生 34 人が、昨年 10 月 21～23 日、ルネスホール（岡山市北区）で国吉康雄の作品と研究資料をコンテンツとした体感型イベント「国吉祭」を企画しました。これは、出石町の住民などにより 2013 年から毎年続けられてきた企画を引き継ぎ、岡山県や岡山市、地域企業の支援の下に実施されたイベントです。

本講座が主催する CD 講座は、さまざまな学部（教育学、法学、文学、経済学、工学、理学、医学部生の 1～4 年生の 34 人）の受講生で構成されており、絶えず「問いかけ」と「議論」を促し、学生自身の「行動」を求めながら講義を進めました。

受講生は、イベント内容をはじめ、会場設計や宣伝計画、予算管理も手がけ、必要な取材を関係各所に自ら行いました。2013 年から続く「国吉祭」によって育まれた地域とのつながりが学生たちのアイデアを支え、国吉研究に裏打ちされた多くのアート体感イベントを実施しました。

＜来年度のプロジェクトについて＞

4 月からの本講座では、国吉作品を使用した「オリジナル演劇コンテンツと関連事業の開発」を行う予定です。これは、これまでに獲得した産官学、市民とのつながりを生かしながら、地域の芸術文化資源を活用して地域課題を考察する試みです。昨年実施した、国吉康雄研究・顕彰活動を基材とした地域コンテンツを活かした人材育成と地域とのマッチングプログラムを発展させたもので、岡山の「クリエイティブセクターの活性化を図るプログラム」として実施します。

作品はオリジナルで製作し、“芸術表現が管理される世界での、人間の精神の尊さ、表現の重要性”をテーマに、国吉康雄の油彩画作品の模写作品（Mr.Ace）と、コンテンポラリーダンスを舞台表現に取り入れた演劇作品となります。

昨年同様、CD 講座の受講生を中心とした本学の学生が、企画から関与し、宣伝計画や、教育・地域連携を主眼とした関連イベント、事業を計画。本公演のプロデュースと運営を手がけます。受講生は各学部、各学年から募集し、受講生各自のクリエイティビティーを磨くためのトレーニングと、本作と岡山の芸術文化資源への理解を深めるための講義を受けながら製作に臨みます。

なお、運営は以下の各班に分かれ、講座が招聘する技術専門スタッフの指導の下、それぞれの職責を担います。

・製作部　　公演と関連事業と予算の管理を担う。制作、宣伝、記録の各班に分かれる。
・演出部　　公演に関わる実務を担う。技術、演出補助等の班に分かれる。
・事業開発部　公演販売グッズの開発と、教育・地域連携プログラムを開発し、運用する。

また、本プログラムでは、スタッフ、キャストを岡山の若者世代から広く募集。募集の要件に関しては、別紙を参照ください。

＜期待される効果＞

本講座が実施するプログラムの目的は、岡山の既存の芸術文化資源を活用した地域コンテンツの開発と運用により、芸術文化都市としての岡山が有する本来のポテンシャルを、岡山で学ぶ学生や住民、地域経済、コミュニティーによって正しく認知・評価されることにあります。

これまで、多くの地域で文化的活動を支えるのは、全国規格のアイテム（服やデザイン物、商業映画など）が主なものでした。岡山でも、オリジナルと呼べる地域の芸術文化資源への理解や有効的な運用は、その資源量や質の高さから考えると低いと感じます。

岡山に古くから存在し、岡山から生み出された技法、郷土の作家、作品を、地域独自のアイデンティティーやアイテムとして誇りに思い、語り継ぎ、地域の基盤を支えうる資材を、岡山でこそ運用できる可能性に、多くの市民が興味を示せずにいます。

その結果、有効な資源が見過ごされてきた現状があり、これが、岡山が多様なポテンシャル（学都、医療先進、交通のハブ、環境、食など）に恵まれながらも、文化や教育などの面では、そのポテンシャルに見合わぬ評価に甘んじている遠因となっていると考えられま

す。

本講座では、都市や地域の課題に対して、文化を基材とした新たなイノベーションを生む若者世代の育成と活躍できる環境を整える必要性を訴え、地域の芸術文化資源の一つとしての「国吉康雄コンテンツ」と、岡山大学の「人材と知財」、岡山の人的・経済的「地域力」のマッチングを積極的に行い、市民の文化的生活の充実とクリエティブセクター（人材・関連産業）の育成、活性化、関係産業の成長の可能性を本プログラムの運営を通して検証します。

本講座の運営には、多様性に富むさまざまな団体・個人の関与が見込まれます。こういった多様な集団・事業において、本学がイニシアチブをとり、地位行政の積極的な関与を促し、地域や関係市民団体、企業との協働を推進・拡張することで、岡山における文化的活動の基盤を整備するための、産官学の連携による協働事業を提案します。さらに、「地域芸術文化資源」の保全と運用により“文化意識を育み、人生の質を向上する”ための模索・検証活動を継続的に実践し、岡山の地域課題に取り組みます。

＜舞台劇製作概要＞

１．タイトル

「老いた道化の肖像をめぐる幾つかの懸念」（仮）

２．企画・製作

大学院教育学研究科「国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座」主催
一般教養科目「クリエイティブ・ディレクター養成」受講生他

３．作・演出

才士　真司　　大学院教育学研究科
国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座　准教授

４．プロデューサー

伊藤　駿　　大学院教育学研究科
国吉康雄を中心とした美術鑑賞教育研究寄付講座　事務補佐

５．岡山公演

日時：　2017 年 11 月 25 日(土)・26 日(日)
場所：　岡山大学鹿田キャンパスＪホール
ほか、岡山県北部地区巡回検討中（※　他都市での公演は未定）

＜お問い合わせ＞
岡山大学教育学研究科
国吉康雄研究講座
准教授　才士　真司
事務補佐　　伊藤 駿
（電話番号）086-251-7633
（FAX番号）086-251-7755

＜参考：国吉祭について＞

ワークショップでは、国吉作品のモチーフとして多用される仮面の製作や、国吉作品絵はがき額装ワークショップを実施。学生の手によるトリックアートの展示やスタンプラリー、ギャラリーでのこれまでの国吉研究の紹介や、貴重な資料の展示のほか、教育連携プログラムの報告会を行いました。また、2015 年、アメリカに住む国吉の生徒や研究者に対して行われた延べ８時間におよぶインタビュー映像を、国吉康雄ドキュメンタリー映画として初公開。最新の国吉研究を岡山の方々に紹介しました。

本講座の活動は、講義の枠内にとどまらず、学生が犬島、直島でアート体験をしたり、2016 年春に「出張国吉祭」を行った吹屋ふるさと村で国吉ファンの陶芸家から陶芸作品の製作指導も受けたりしました。そこで製作した国吉モチーフの陶芸作品は、国吉祭当日に行った色つけワークショップのアイテムとして使用しています。

本学の「JAZZ 研究会」や「ダンス部」ともコラボレーション。両サークル有志は、それぞれの活動と国吉康雄との接点を模索してオリジナル企画を提出し、「国吉康雄体験空間」を演出しました。

また、CD 養成受講生の取材活動から、国吉が少年時代を過ごした明治期の風俗を会場に展示する機会も得ました。出石町伝統の山車は、2012 年より続く「出石国吉康雄勉強会」の理解と協力を得て会場に展示。山車に記された「嘉永七年」という文字を学生が見つけ、この山車が黒船来航の年に製作されたことが初めて明らかになりました。さらに、国吉自身も親しんだのではないかと推察される、江戸時代から伝わる獅子舞を、「備前岡山獅子舞太鼓唄保存会」の指導の下学生たちが舞うという試みも実施されるなど、若者世代が国吉康雄を介して、地域の伝統風俗に触れる機会と地域住民との交流の場を創出しました。

なお、本講座の支援を受け、岡山後楽館高等学校が、「クニヨシ部」という学生有志の文化活動団体を設立し、国吉康雄作品をアレンジした文具や小物を製作、販売するという試みも行いました。本プロジェクトを成立させるため、本講座が地域とのマッチングの役割と研究知見を提供し、公益財団法人福武財団がコレクションの素材使用を許可。出石国吉康雄勉強会が商品開発のための取材活動に協力しました。

このような試みとアイデアが展開された会場には、子どもから大人まで幅広く 300 人以上が来場。59 人の本学学生と後楽館高校生がスタッフとして 3 日間のイベントを支えました。

以上より、地域のパートナーシップと若者世代のクリエイティビティーをマッチングさせる試みは、イノベーションを起こすための土壌づくりには欠かせない、センスの練達と刺激を与える有効的な「場」として機能するとともに、地域に伝わる伝統芸能やその知識を伝えるための機会を創出。岡山の若者たちと他地域、世代間の橋渡しをしました。
（現在、この活動をまとめ、検証した冊子を、学生たちと製作中です。希望される方には郵送しますので、担当まで連絡ください）